

加茂名小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本を身に付け、自己実現をめざす子供の育成
- 主体的に取り組み、豊かに表現する子供の育成

校長

奥村 兆男

学力向上推進員

大宮 佳世子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の活動を学力向上のために活用し、漢字、計算等の基礎的な知識・技能の習得率は向上してきている。 ●学習したことを日常生活の中で活用できていないため、既習事項を時間が経つと忘れてしまい、定着が不十分である。また、長い文章を根気よく正確に読み取ったり、新しく身に付けた知識と既習の知識を関連付けて自分の言葉で表現したりすることに課題がある。	・漢字、計算等の基礎的な知識・技能の学年目標習得率を向上することができる。 ・既習事項や問題解決の過程で習得した語彙や表現方法を用いて、授業や生活の中で、自分の考えや思いを言葉で表現することができる。 ・進んで読書をしたり、調べ学習に図書室を利用したりすることで、語彙力や問題解決力をつける。	・漢字や計算の確認テストを定期的を実施したり、タブレットのミライシードを活用して反復練習や遊り学習を行ったりする。また、認知トレーニングを取り入れ、学習の地づくりを行うと共に、県が作成した活用問題の利用を促す。 ・図書担当教員との連携を図り、朝活の読書タイムを利用や、調べ学習等での学級ごとの図書室利用を呼びかけることで家庭での週末読書を推進し、読書の習慣化を図る。	・学期末には、漢字や計算の確認テストを実施し、各学年の目標達成率をほぼ達成できた。学習の基礎的な力が、身に付いている児童は多いが、応用力はまだ不十分である。 ・読書タイムを利用しての図書室及び多目的室の利用をローテーションカードで推進しているが、週末読書の推進はあまりできていない。図書委員の企画したイベントへの参加をもっと促したい。	・漢字や計算の確認テストを学期末に実施し、ほとんどの学年で各学年の目標達成率をほぼ達成できている。学習の地づくりはほぼできていていると考えられる。応力をつけるための県が作成した活用問題の利用を促すことができなかった。 ・図書委員会との連携を図り、イベントへの参加を通して、図書室へ足を運ぶ児童や本を読む児童の姿が見られた。ノーメディアデーを利用して本を読む児童も見られた。	タブレットが新しくなり、ミライシードを活用した既習事項の遊り学習がスムーズに行えるようになったので、もっと推奨したい。県が作成している活用問題を印刷室に設置し、宿題や授業で活用できるようにしたい。また、語彙力向上につながるような階段や踊り場等を利用した掲示を検討したい。 調べ学習で図書室をもっと活用できるように、市立図書館との連携も図れるよう、声かけを行っていききたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアやグループなど多様な学習形態での伝え合い活動を通して、自分の考えを伝えようとする意識が育ってきている。 ●必要な情報や適切な言葉を選んだり、友達の意見と自分の意見を比較検討したりして、自分の考えを再構築させて表現するまでには育っていない。	・内容を整理しながら文章を読んだり、他の人の話を聞いたりして、感想や自分なりの考えをもち、それを言葉で表現することができる。 ・必要な情報や適切な言葉を選んだり、友達の考えを聞いたりして、自分の考えを広げたり比べたりして自分なりに表現することができる。	・メモや付箋、ホワイトボードを活用し、自分の考えたことを書きとめられるようにする。 ・ペアやグループなど多様な学習形態やタブレットを活用した学習活動を取り入れ、「なぜ」「どうして」などの発問を行うことで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・友達の意見と比較検討できたり、自分の考えを再構築できたりするような書き出しを提示する。また、話し方や聞き方のコツを提示する。	・メモや付箋、ホワイトボードを活用し、自分の考えたことを共有できるような活動を取り入れているクラスは多く見られる。また、ペアやグループなど多様な学習形態での学習も行っており、意見交換をする場を設けているクラスも多い。 ・友達の意見と比較検討できる児童は多いが、自分の考えを再構築できるまでには、至っていない。また、書くことで自分の意見を伝えることもまだ難しいと感じている児童は多い。	・メモや付箋、ホワイトボードを活用し、自分の考えたことを共有できるような活動を取り入れたクラスは多く見られた。また、ペアやグループなど多様な学習形態での学習を行い、意見交換をする場を設けているクラスも多かった。 ・友達に自分の意見を伝えたり、友達の意見と比較検討できる児童は多く見られた。しかし、友達の考えを聞いて、自分の考えを再構築することや書くことで自分の意見を伝えることがまだ難しいと感じている児童は多い。	他学年との活動や、他校や地域の人の関りのある活動を積極的に授業実践に取り入れることで、相手を意識した伝え方を工夫したり、他の人の意見から自分の意見を再構築したりできるようにしたい。 また、研修の時間を利用して、他学年間での授業実践について意見交換をしてはどうか。さらに、話し方や聞き方の掲示物を作成し、配布できるようにしたり、先生方の授業実践向上につながる書籍の購入も検討したい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○提示された課題には真面目に取り組むことができる。また、興味をもつ課題に対して、主体的に取り組む児童が増えてきた。 ●個人差が大きく、手助けが必要な児童が多い。また、自分で計画を立てて課題を解決する力が不十分である。	・新しいことに興味をもったり、自分の課題を見つけたりして、主体的に学習に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況を振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・自主学習の内容を自分で決めて、主体的に取り組むことができる。	・子供たちが楽しみながら学習できる授業の研究・実践に取り組む。 ・ヒントカードの見直しやリスト化を行い、ヒントカードを効果的に活用できるようにすることで、自ら学習に取り組むことができるようにする。 ・自主学習の取り組み方を例示したり、自主学習のノートの紹介をしたりすることで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。	・自主学習強化週間や家庭学習強化週間を行い、学習に取り組む意欲を高められるようにした。自主学習の達成シールを楽しみにしている児童の声が聞かれ、効果は少なからずあるのではないと思われる。 ・ヒントカードは、今年度中に整理ができるようにしたい。 ・自主学習の取り組み方を例示したり、自主学習のノートの紹介したりすることは、学級によって違いがある。	・自主学習強化週間や家庭学習強化週間を行ったが、実施期間が連休に重なると、達成率が低かった。取組に対する声かけや意識付けに学年間の差が感じられる。 ・ヒントカードに関しては、来年度から運用できるように今年度中に整理完了予定である。 ・自主学習のノートの紹介を行っているクラスは、子どもたちの自主学習の質の向上に役立っている。	自主学習強化週間や家庭学習強化週間で取り組んだ児童の達成率や自主学習ノートの掲示を行ってはどうか。 ヒントカードに関しては、来年度から使用できるように、印刷室にヒントカードコーナーを設置したい。 研修の時間を利用して、タブレットを用いた授業実践やアプリの活用法などの研修を実施し、もっとタブレットを有効に活用できるような環境作りを行っていききたい。